

会議録【要点筆記】

会議名称	令和7年度第1回米沢市観光振興委員会		
開催日時	令和7年7月17日（木） 10時00分～12時00分		
開催場所	置賜総合文化センター 2階 203研修室		
出席者	(氏名)		(所属団体等)
	委員長	遠藤 勲	一般社団法人米沢観光コンベンション協会 理事
	副委員長	田中 明子	米沢商工会議所 理事兼事務局長
	委員	小形 喜代之	山形おきたま農業協同組合 米沢・川西地区統括支店長
	委員	松田 智博	協同組合米沢商店街連盟 理事長
	委員	遠藤 平右衛門	温泉米沢八湯会
	委員	野本 真穂	米沢鶴城高等学校 教諭
	委員	中嶋 朱実	NPO 法人米沢伝承館 副理事長
	委員	高橋 弦子	米沢市社会福祉協議会 総務管理課長
	委員	寒河江 大輔	上杉文化エリア懇話会
	委員	黒澤 光高	米沢ブランド戦略会議委員
	委員	宮崎 市朗	公募委員
	オブザーバー	宮嶌 浩聡	プラットヨネザワ株式会社 代表取締役
オブザーバー	小田 航平	〃 取締役	
欠席者	(氏名)		(所属団体等)
	委員	入間川 悟	東日本旅客鉄道株式会社 米沢駅長
	委員	黒田 三佳	米沢市国際交流協会 会長
	委員	宮坂 匡	公益社団法人米沢青年会議所 室長
事務局出席者	我妻部長、富取課長、川井課長補佐、佐藤（功）主査、佐藤（祥）主任 米沢観光コンベンション協会：青木事務局長		
会議資料	・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 令和7年度の主な実施事業及び予算について（別紙1） ・ 令和6年度実施事業の評価及び第4期米沢市観光振興計画の総合評価について（別紙2～4） ・ 第5期米沢市観光振興計画の策定について（別紙5～6）		
会議内容			
【1 開会】 【2 委員長挨拶】 ■委員長 ・今年度1回目の観光振興委員会ということで、今年度も引き続きよろしくお願ひしたい。 今年度はさくらんぼの収穫量が少なく、観光果樹園の観光客の入込が少ない状況である。			

また、現在、山形新幹線の故障トラブルにより新幹線の運行本数が極端に少なくなっており、この件も観光業界に影響を与えている。このようなマイナスの部分について、今後、取り返して行けるよう皆さんと協力して頑張っていきたい。

- ・今年度策定する観光振興計画については、R8～R12の5年間の計画期間となるが、5年目にあたるR12は上杉謙信公生誕500年となる年でありメモリアルイヤーになるため、ここを見据えて宿泊客数の増加という点に注力していければと思っている。
- ・本日の会議では皆さんより意見をいただく時間があるが、その際に次期観光振興計画に組み込んでほしい点について意見として出していただければと思う。

【3 委員紹介】

【4 事務局及びオブザーバー紹介】

【5 議事】

＜議事へ移る前に、事務局より協議事項等について説明する＞

■本会議の定足数について、委員11名が出席しており、総委員数の過半数を超えていることから、本会議は成立する旨説明する。

■会議録の公開等について次のとおり説明し、協議を行う。

- ・本日の会議録については、要点筆記とし、発言者名は記載しないこととする。
- ・会議録は公開することとする。なお、次のいずれかに該当するとき、会議録の全部または一部を非公開とすることができる。
 - (1) 法令等の規定により公開することができないとされているとき。
 - (2) 会議での審議内容が、不開示情報に該当すると認められるとき。
 - (3) 会議を公開することにより、公正かつ円滑な審議が著しく阻害されると認められる場合で、審議会等の決定により、その会議の全部又は一部を公開しないとしたとき。
- ・委員の方の個人情報については、国の機関、地方公共団体、関係団体、市民及び報道機関より、情報提供の依頼があった場合は、名簿に掲載してある範囲に限って提供させていただく。

→ 委員より意見等無いため、上記のと通りの対応とさせていただく。

■本会議の議事録署名人について、松田委員、中嶋委員へお願いする。

【(1) 報告事項①令和7年度の主な実施事業及び予算について(別紙1)】

■事務局より説明

【(1) 報告事項②令和6年度実施事業の評価及び第4期米沢市観光振興計画の総合評価について(別紙2～4)】

■事務局より説明

■委員長

- ・基本施策1－3について、以前、雪菜を栽培している様子を観光客に見学してもらい上

杉記念館で雪菜を使用した料理を提供するといった取組みは行っているため、その点補足したい。

・基本施策1－4について、360° オープンファクトリーに関わりのあった委員もいらっしゃるが、この評価についてはいかがか。

■委員 もう少し評価が高くても良いかなと思う。毎年参加させていただくが、普段見ることのできない機械等を見られる良い機会であり、伝統工芸について身近にあるということを感じられる良いイベントである。

■委員 私ももう少し評価が高くても良いかなと思う。私の周りではオープンファクトリーに行ったら良かったという感想が多く、また、実際に伝統工芸関係の仕事をしてみたいという声も聞いたことがあり、大変有意義であったと思う。

■委員長 基本施策1－4については、360° オープンファクトリーのみではなく、後継者の育成支援という部分も含めての全体的な評価となっていることを留意いただきたい。

■委員 この評価については事務局で行っているのか。

■事務局 そのとおり。

■委員 評価方法について疑問がある。評価するにあたっては、本日のように様々な意見が出てくると思うし、幅広い意見を聞いて評価するという方法が正当であると思う。事務局のみで評価するという方法は違うのかなと思う。

■委員 私も同意見であり、この評価は誰が行ったのか疑問であった。一般的な意見が入っていないと思うため、様々な意見を拾うようにしていただきたいと思う。

■委員長 評価するにあたっては、各分野の専門の方から意見をいただくといった方法や、評価書を委員会に提出する前に各委員から意見をいただくといった方法をとることについて今後検討してほしい。他に意見等あるか。無ければ次に進みたいと思う。

【(2) 協議事項 第5期米沢市観光振興計画の策定について(別紙5～6)】

■事務局より説明

■委員長 目次(案)第1章及び第2章について質問、意見等あるか。

■委員 第2章の「4 米沢市の課題の整理」についてはどのように記載する予定か。

■事務局 第2章の「3 米沢市の現状」で本市の分析を行い、課題を整理して記載するといった内容を想定している。

■委員 全ての課題について議論できなかったということにならないよう、課題の整理についてなるべく早く行っていただき、各委員へ示していただくようにしてほしい。

■委員長 次回の観光振興委員会までには整理していただく、もしくは会議の前に各委員に示していただくといったことを検討してほしい。

私からも意見を述べたい。次期米沢市総合計画がR8～R17を計画期間として策定されるが、本来であれば、この総合計画をふまえて観光振興計画を策定する必要があると考えている。今後の予定から考えると、第7期観光振興計画をR17に策定することとなるが、米沢市総合計画も改定となるため、米沢市総合計画策定後(策定から半年後であるR18.6頃)

に第7期観光振興計画を策定してもよいのではないかと思います。この点、事務局の方でいかがか。

■事務局 検討したいと思う。

<目次（案）第3章について各委員による意見交換>

■委員長 第3章について、順番として、

- 1 基本理念、基本方針、施策の体系
- 2 重点プロジェクト
- 3 具体的な施策
- 4 施策の展開
- 5 数値目標（観光客入込客数、観光消費額）」

になるかと思われる。

第3章について、各委員から意見等いただきたい。

■委員

- ・温泉地のブランディングが重要であるためこの点検討してほしい。
- ・広域的な情報発信が重要である。白布のことを白布だけがやる、小野川のことを小野川だけがやるではないようにしたい。また近隣自治体のイベント情報について米沢市でも発信していければと考えている。
- ・ラーケーションという制度があり、この制度は、子どもたちが保護者と一緒に校外で体験学習を行う目的で平日に学校を休むことができるもの。大分県別府市では、温泉地であるということから観光業に従事する方が多く、休日に休めない家庭が多いため、この制度を活用して、平日に子どもが休んで保護者とともに体験学習を行った場合は公休扱いにできることとしており、この件がニュースになっていた。米沢市においても、教育委員会と協力してこのような取組みができないかと思う。我々のような観光業に従事する者が子どもと一緒に他の観光地へ行くことで新たな学びがある場合があり、また、こうしたラーケーションの取組みを米沢市で行っているということで、観光業に従事する人が生活しやすい町であるという意識の醸成につながり、ブランディングになるのではないかと思う。

■委員長

- ・観光消費額において、宿泊者が占める消費額は大きいものになるため、温泉地のブランディングは重要である。米沢市では、白布温泉と小野川温泉が大きな温泉地となるため、この2つは特に力を入れていきたい。
- ・広域的な情報発信ということであるが、この話を聞いていて、山形市の花笠まつりの際に山形市内の宿泊施設の予約が埋まっても近隣の市町村の宿泊施設は空いているということを思い出した。近隣の宿泊施設が空いていればこちらに予約する人も増えていくことになる。このようなこともあるため、近隣自治体のイベントであっても積極的に情報発信し、米沢市への誘客につなげていくことが大切である。
- ・ラーケーションについて、これを利用することで、観光業に従事する家庭の子どもにとっては観光業に対するイメージが変わるのかなと思う。今の高校生は、親にサービ

ス業ではなく製造業をすすめられるという話を聞いており、ラーケーションを導入することで、若い人が観光業へ従事するという点でハードルが下がると思われる。

■委員

- ・ さくらんぼの収穫量について今年は昨年より悪い状況だった。これに伴い観光果樹園のお客さんも少なかったようである。また、現在、米沢市の近隣では桃の作付けが進んでおり、デラウェアやシャインマスカットも作付けが進んでいる。農家の方々は直売所での直売を意識しているようである。こうした背景もふまえ、次期観光振興計画については、各業界の意見を取り入れ、実情に合った計画の策定をしていただきたいと思う。
- ・ 農泊について、米沢市でも受入推進を行っていると思うが、他市町村と比べるとまだまだ推進していく余地がある。農業振興課と連携して積極的に進めてほしい。米沢市は姉妹都市もたくさんあるため、姉妹都市からの受入も進めてほしい。
- ・ 我々、山形おきたま農業協同組合は、置賜の3市5町が合併してできており、置賜は一つという観点で事業を行っている。米沢市の観光についても、近隣自治体と連携し置賜地域全体が発展するような取組みを行ってほしい。

■委員長

- ・ 果物の直売所は旅行の目的になるものであるため不作であるという情報が流れると観光客が減ったりする。フルーツ、果樹は観光にとって重要なものである。米沢の近隣にある果樹園や直売所と連携して周遊ルートをつくり、米沢への誘客につなげていければと思う。
- ・ 今後、観光においてアクティビティが重要になるため、農泊についても力を入れていく必要がある。観光課と農業振興課が連携し、何か取組みを行うことができればと思う。

■委員

- ・ 山形県が観光庁の「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり・モデル観光地・マスタープラン」の対象エリアに選ばれており、またコロナ明けということで、インバウンド誘致に力を入れてほしいと考えている。私の会社の方で、ディスカバリーチャンネルで放送できる時間枠の申請をするといったことがあり、その際に、米沢市のインバウンド動向について調べようと思い第4期観光振興計画を見たりしたがあまり情報が得られないということがあった。このようなことをふまえ、次期計画ではインバウンド対策について重点プロジェクトに設定してほしいと思う。
- ・ 米沢市の宿泊施設の数には限りがあるため、近隣自治体と連携して宿泊者の受入を行っていく必要があると思う。また、南陽のワインは天童や寒河江に負けないぐらいの品質であるため、こうした近隣自治体の突出した良いところ、良いものを活用し、広域連携を行いながらインバウンド受入を進めていくべきだと思う。

■委員長

- ・ インバウンド受入は非常に重要である。国では、2030年までにインバウンド受入を

6,000万人にするという目標を掲げている。東京や大阪ではこれ以上インバウンドの受入ができないと思われ、そこで溢れた分が地方へ行くという流れになるかと思う。インバウンド受入については手を抜くこと無く、宿泊型と通過型の両面で力を入れていく必要がある。

■委員

- ・R6の評価の資料に「宿泊型の長期滞在コンテンツの造成について検討する」とあるが、上杉文化エリアには博物館等があるためコンテンツ造成の際にはぜひ活用してほしいと思う。
- ・R12に上杉謙信公生誕500周年を迎えるということで、上杉謙信は非常にネームバリューがあると思うので、ぜひこの生誕500周年の記念事業を重点プロジェクトにしてほしいと思う。この事業に伴う環境整備ということで、博物館が建設されてから30年弱経っており、また博物館内の展示内容も変わっていないため、リニューアル等について検討いただければと思う。
- ・郷土愛の醸成についてであるが、私の印象であると、近年はかなり弱くなっているように思う。鷹山大学の講座について情報発信に力を入れる必要がある。
- ・人材研修についてであるが、約20年程前に観光業従事者研修という研修に参加し、市内の観光施設や史跡を周り、ガイドの方にいろいろと教えていただくという機会があり大変良いものであったと記憶している。この研修を受けたことで地元への誇りの思いが芽生え、また、研修で学んだ内容はお客様にいろいろとご案内する上で役立つものであるため、ぜひ研修の実施について次期計画の施策に取り入れてほしい。

■委員長

- ・R12の上杉謙信公生誕500周年は大きな節目となるため、それに向けて環境整備に取り組む必要がある。このような記念事業を行うためには、郷土愛の醸成が重要であり、地元の方々の郷土愛が無ければ事業を行えないと思うので、この点も次期計画では力を入れる必要があると思う。また、研修の実施についても、今後検討していく必要がある。

■委員

- ・障がい者や高齢者に優しい観光地になるという点について、次期計画において明確に示してほしい。米沢市の魅力を発信するのは市民の方一人一人であるので、市民の方が何をどのようにしたら良いのかということを計画に盛り込んでほしい。
- ・米沢駅は米沢市の玄関口となるので、駅で米沢の魅力や情報を発信できるように整備を行うことについて検討してほしい。山形だと駅近くの霞城セントラルでお酒の試飲を行っているが、米沢でもこうした取り組みができないかと思っている。
- ・喜多方ラーメンは全国的に有名であるが、それは何故なのか、どのようなPRを行っているのかということについて喜多方市と連携し情報共有してほしいと思う。

■委員長

- ・観光、旅行においては、ユニバーサルツーリズム、アクセシブルツーリズムという言葉が出てきており、優しい観光地という考え方は重要である。年齢、性別、言語、人

種等問わず誰でも受け入れる観光について推進していきたい。

- ・駅での情報発信について今後検討していきたい。ラーメンのPRについても広域連携しながら行っていきたいと思う。

■委員

- ・先ほど、誰にでも優しい観光地という話が出たが、道の駅の案内所で障がい者に優しい案内を心がけてほしいと思う。可能であれば、案内所に広めのスペースを設け、車イスを案内所近くに設置し、手話ができる職員を配置することが望ましいが、無理であればマニュアルの整備だけでも行ってほしい。インバウンド受入だけに力を入れるのではなく、障がい者や高齢者等に配慮した観光を推進するということも重要である。
- ・先ほど、観光業従事者研修の話が出たが、これに関連して、子どもたちが米沢の歴史について学ぶ機会をつくるという取組みや、観光ガイドの方や観光業に従事している方が小中学校に出向いて米沢市の魅力を伝えるという取組みを行っても良いのではないかと思う。こうした取組みを行うことで将来的に人材の育成につながっていくと思う。

■委員長

- ・高齢者や障がい者の中には、足が悪いけど旅行に行きたいと考える人がいるため、このような方々の受入整備について検討していく必要がある。
- ・研修について、観光従事者向けに大々的に行うことを検討していきたい。上杉城史苑の駐車場係の方には「あなたが観光客と最初に出会う米沢の人」ということを伝え、ホスピタリティについて意識してもらうようにしている。誰にでも優しい観光案内について次期計画に取り入れていきたい。

■委員

- ・米沢市でのインバウンドの団体客受入については今後厳しいと思う。受入整備の出足が遅すぎたことと、交通関係の民間事業者があまり力を入れていないことなどが理由である。このようなことから今後は国内とインバウンドの個人旅行者をターゲットにすべきである。トレッキングやおまつりへの参加といった体験型の観光を推進してほしい。
- ・出張で市外へ行くことがありその際に町の中を歩いていて思うことは、歩道の整備がされていると歩きやすいということである。計画策定にあたってこのような点も考慮してほしいと思う。
- ・昨日、千葉から高速バスで米沢に来た方と話す機会があったが、米沢に朝早く着いた際にどこか行く場所はないのかと尋ねられる場面があった。高速バスで米沢へ来る方のために米沢駅の2階を開放するなどの対応を行ってはどうか。
- ・先ほど第4期計画の評価の説明があったが、評価するにあたり、体験型のコンテンツを利用された方や宿泊事業者や観光で訪れた方々等にアンケートを実施することが望ましいと思う。実際に体験された方の生の声を聞くということは重要であるため検討してほしい。

■委員長

- ・商店街のような小さなお店の集まりに町の魅力が詰まっていると思う。このようなお店の集まりが無くなれば人が減っていき観光客減少にもつながっていく。商店街においても「体験」を提供していければと思う。
- ・国内全体の観光消費額は24兆円であり、そのうち8兆円がインバウンドの消費額であり全体の1/3を占めているが、残りの2/3は国内旅行者の消費額である。国内旅行者は今後も無くならないものであり、また国内旅行の消費額は、為替や世界情勢の影響を受けにくい部分であるため、国内旅行について軽視しないようにしたい。

■委員

- ・おまつりやオープンファクトリー等のイベントに高校生がボランティアとして参画できるようにしてほしい。現在、大学に進学する際の総合型選抜において、勉強以外にボランティアへ参加することが必須となっており、高校生のボランティアの需要が高まっている。高校生がボランティアへ参加することで人材の育成にもつながると思うので検討してほしい。

■委員長

- ・鶴城高校はオープンファクトリーに積極的に関わっており、地域に根付いた高校ではないかと思う。高校生がボランティアに参加する際に注意したいことがあり、「手伝ってもらおう」ではなく、「関わってもらおう」という意識が重要である。「手伝ってもらおう」であると楽しくないものになってしまうためその点忘れないようにしたい。

■委員

- ・別紙1の年度別の観光客入込数の推移について、H21の時の数値は天地人関係で一時的に増えたものであるため忘れた方がいいと思う。人口減少が進んでおり、空き店舗や空き地が増えている中で、今後、この入込数の数値を大幅に伸ばしていくことは難しいと思う。入込数を伸ばすよりは市民全体の幸福感を高めることが重要である。
- ・第4期計画の評価についてほとんどがB評価であるが、次期計画については一つでもA評価となるよう取り組んでいきたい。
- ・米沢市の良いところは「食・地・人」だと思うが、特に食の部分は積極的にPRできていると思っている。また、米沢市は知識を深められるところだとも考えており、近代建築が最近注目されていることもあり、伊藤忠太や中条誠一郎などの建築家が米沢出身であるため、知識欲の強い人にとっては魅力を感じる場所であると思う。
- ・先日、御廟所でフランス人の方に会う機会があり、個人で旅行に来ていたようである。先ほどもインバウンドの個人旅行客の話が出たが、こうした個人の旅行客をターゲットにしていくことが重要であると思う。
- ・第4期計画の評価資料について、人づくり関係の部分のほとんどがC評価であり残念に思っている。この部分をしっかりと取り組んで、郷土への愛情や誇りの醸成につなげていくことが重要である。
- ・ものづくりや伝統工芸作家に対するフォローが少ないと感じている。原方刺し子についても存続できるか分からないような状況であり不安を感じている。こうした伝

統工芸関係の魅力や歴史について、学校の授業で子どもたちに教える時間をとることができれば良いと思うので検討してほしい。

■委員長

- ・入込数については、各施設でカウントしているため、1人が5回カウントされたりすることがある。H21の時はこのように複数の場所でカウントされたため入込数が伸びたという要因があると思われる。
- ・建築家を知りたくて米沢に来る人もいれば、建築を見たくて米沢に来る人もいると思う。こうした、来る人の目的に応じて受入体制の整備を行うことが大切である。

■副委員長

- ・人材育成関係について、数年前であるが、アスクとコンベンション協会と道の駅米沢の職員が集まり研修会をしたことがあった。また、一定期間、アスクの職員がコンベンション協会へ行って観光案内を行うといったように3ヵ所の観光案内所の間で職員が移動して業務を行うということも計画していたが実施には至らなかった状況である。次期計画では、観光従事者の人材育成という項目を設けていただき、この点に力を入れてほしいと思う。
- ・先日、商工会議所の会議に出席した際に、今後、米沢ラーメンを提供できるお店が将来的に無くなってしまうのではないかと意見があった。全国で商標登録されているのは和歌山ラーメンと米沢ラーメンのみであり、このような特殊性もあるため、米沢ラーメンをいつまでも残したいという思いがある。商工会議所としては、米沢ラーメンを提供するお店の事業承継の支援を行いたいと考えている。このようなことは、ラーメンだけに限らず米沢市内の飲食店全てに当てはまると思われる。米沢の魅力ある食についての情報発信を今後積極的に行ってほしい。
- ・道の駅米沢に「まちナビカード」を掲げる場所が100ヵ所あるが、現在、70ヵ所くらいしか埋まっておらず、また西置賜地域の店舗のカードの数がかなり少ない状況である。こうしたことから、近隣自治体の道の駅との連携を考える必要があり、広域連携による観光の推進について今後考えていかなければならない。

■委員長

- ・米沢には伝統的な食べ物や野菜、米沢ラーメン、米沢牛というように特徴ある食べ物が多いが、このような食べ物や料理を提供する人が今後少なくなることを防ぐためには、飲食業に従事する方の地位の向上、お店や料理人へのリスペクトといった考え方が重要であると思う。この点についても次期計画に盛り込んでいきたい。
- ・私の方からも意見があるが、米沢市の観光においては、通過型のお客さんが多く、宿泊等の滞在型のお客さんが少ない傾向にある。観光客受入にあたっては、通過型ということで上杉神社周辺に来てもらい、滞在型ということで温泉地に宿泊していただく、特に旅館数が多い小野川温泉や白布温泉に宿泊してもらおうという意識を持つことが重要である。
- ・これで議事を終了する。

【6 その他】

■委員 本日の資料について、昨日の夕方に私の家に到着した状況である。資料については、会議の1週間までに到着するよう発送してほしい。

■事務局 次回より早めに発送することとする。

【7 閉会】

この会議録（会議趣旨）が正確であることを承認します。

会議録（会議趣旨）署名人

委員 松田 智博

委員 中嶋 朱美